



第一環境株式会社 九州・沖縄支店

地域での日常業務 及び 見守りの内容

水道検針の訪問先で見守り活動を実施。近隣住民への声掛け活動を通じ、地域の安全、安心向上に努めています。

- ・ 熊本市（東部地区を偶数月、西部地区は奇数月に検針）
約173,000件（隔月）
- ・ 大津町 約19,000件（隔月）
- ・ 菊陽町 約22,000件（隔月）
- ・ 益城町 約13,500件（毎月）

異変を察知した事例

2025年6月27日

水道メーター検針員が、信号を渡っている女の子（小学生1年生）が泣いていることに気付き、また顔が真っ赤で熱中症の可能性も疑われる状態であったため、涼ませる目的で近くのセブンイレブンまで誘導し、店舗横の木陰で体調が落ち着くまで休憩させたのちに、学校名と氏名を聞き取りし、小学校に連絡を行った。担任の先生へ状況を説明し、無事に学校関係者へ引き渡しをすることができた。



社内での研修 又は周知状況

社員一人ひとりが認知症に対する正しい理解を深め、地域や業務の中で支援の目を持つことを目的に、認知症サポーター制度に基づいた研修（外部講師を招へいし、認知症サポーター養成講座の受講）を予定。

今後の見守り活動に向けて

水道メーター検針業務は、毎月決まったタイミングで地域の各家庭を訪問するため、住民の生活状況の変化にいち早く気づくことができます。この特性を活かし、今後も以下のような見守り活動を実施します。

異変の早期発見

郵便物の滞留、呼びかけへの反応がない、洗濯物がずっと干したままなど、通常と異なる様子を確認した際は、社内ですぐに共有し、必要に応じて関係機関へ連絡。

声かけの実施

高齢者や一人暮らしの方に対して、検針時に「こんにちは」「お変わりありませんか？」などの声かけを実施し、日常的なコミュニケーションを図ることで安心感を提供。

認知症サポーターとしての対応

認知症サポーター養成講座を受講した検針員が、認知症の方への適切な接し方を実践し、混乱されている方への丁寧な対応を心がける。